

まちを愛し、まちを元気に

ナバリスト 9

竹森 龍馬 さん | 竹あかり工房 きぼう 代表



KIBOU_MIE_NABARI_TAKEAKARI

たけもり・りょうま ● 通信制高校 3 年の 17 歳。高校 1 年生のころ、「竹あかり工房 きぼう」を創業。大好きな名張を盛り上げようと、イベントを主催したり、マルシェで竹あかりのワークショップを開いたり。市のブランドロゴワークショップにも参加



地域の人の協力で竹林を活用



初瀬街道沿いで工房を営む



いつもは、ひっそりとしている初瀬街道で
たくさんの笑顔が行き交うイベントを開催

みんなの支えを力に変えて「なんとかなるなる」。

小学生の頃に感動した竹あかりが心に残っていて、高校1年生で、「きぼう」という名の工房を立ち上げました。不登校になったり、心が疲れて入院したりと、つらい時期もありましたが、自分の活動が同じような人の「きぼう」になればという思いを込めています。

活動の一環で、大好きな地元の初瀬街道を盛り上げようと3年前から「新田竹あかり小路」を開催。僕が50歳、100歳になっても活気があふれるまちを目指していくことで、温かく見守ってきてくれた地域の皆さんに恩返ししたいという思いがあります。

今年は、道路を通行止めにして街道沿いに100本もの竹あかり。ダンスなどのパフォーマンスや、屋台を出店いただくなどして、なんと600人にお越しいただきました。警察への届出など準備も大変でしたが、クラウドファンディングでの支援、地域の皆さんや多くのボランティアさんの支えもあって、大成功！「街道に賑わいが戻ったみたい」と嬉しい言葉をたくさんいただきました。

工房に飾っているのは創作した四字熟語「新舞天力」。「新しいことに舞うように挑戦し、みんなから力を授かる」という意味です。最近は、工房の活動をSNSで見た人から、応援いただくことも増え、すごく励みになっています。これからも、多くの皆さんの支えを力に変えて、「なんとかなるなる。なばりです。」を身をもって表現していきたいですね。

編集後記



名張のひと・活動

地域活動のメンバーが減っていく、子どもの同級生が少ない…。ここ10年ほどで人口減少を実感するように。「昔はこうだった」は通用せず、ますます柔軟に物事を捉えていく必要があります（たか）

「現在の生活で使用するものが少ないものを、守り続けるのは難しい」と火縄保存会の岩崎さん。上小波田で守られる素晴らしい伝統技術に、多くの人に興味を持ってもらいたい（くま）

しんどい時に行く所ですが、病児保育室が大好きな子は多いそう。自ら行きたがる子や、将来働きたいと質問してくる子もいるんだとか。病気を忘れて楽しく過ごせる場所なんですね（はる）

ワールドフェスタにいられた外国人のご家族が「福笑い」を楽しんでいた姿が印象的。遊びとして体験を楽しむことで、いろんな国の文化への理解を深められるのはいいですね（こっ）

令和6年12月10日発行

広報なばり

● 人口 74,305 人（前月比 - 49 人） ● 世帯数 34,959 世帯（前月比 +13 世帯）※ 11/1 現在

発行／名張市 なばりの未来創造部 広報シティプロモーション推進室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1

☎ 0595-63-7402 FAX 0595-63-2560 ✉ pr@city.nabari.lg.jp



市HP